

令和3年 春

# としょかんゆうびん 中学年向け

相生市立図書館 ☎0791-23-5151

## 4・5・6月の行事

- ・体調がわるい人は行事に参加できません。
- ・手指のしょうどくとマスクの着用をおねがいでいます。

4/23 (金) 9:00~  
本の福袋 20ふくろ限定  
なかみがわからないように、  
ふくろにつめた絵本を2さつ  
セット

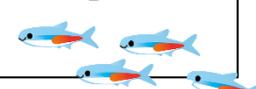


4/25 (日) 11:00~  
おはなし会  
えほん『ふしぎなたけのこ』  
ほか  
おはなし「すずめとからす」  
ほか



6/12 (日) 14:00~15:30  
シネマサロン  
アニメ「ピーターパン」  
原作『ピーターパンとウェン  
ディ』J. M. バリー/作  
先着30名まで。

6/13 (日) 11:00~  
パネルシアター  
『にじいろのさかな』ほか



4/24 (土) 14:00~15:30  
シネマサロン  
アニメ『ピノキオ』  
原作『ピノッキオの冒険』  
コッローディ/作  
先着30名まで。

5/16 (日) 11:00~  
おはなし会  
えほん『かばくん』ほか  
おはなし「ねずみの国」ほか



6/27 (日) 11:00~  
おはなし会  
えほん『ゆかいなかえる』ほか  
おはなし「ライオンとやぎ」  
ほか

4月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	*

5月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	*	*	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	*	*	*	*	*

6月

日	月	火	水	木	金	土
*	*	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	*	*	*

■お休み 開いている時間 | 朝9:00~夜7:00

保護者の皆様へ

相生市にお住いの方なら、どなたでも貸出カードを作ることができます。

利用登録の際、貸出カードを作る方本人の身分証明書が必要です。

お子様の場合は保険証などをご持参ください。

ご不明の点がございましたら、相生市立図書館までお問い合わせください。

# いざ、物語の世界へ！

## 『ベネベントの魔物たち ①』

ジョン・バーメルマンス・マルシアーノ・作

ソフィー・ブラッコール・絵 横山和江・訳//偕成社//93-マ



ふたごのローザとエミリオのせいかくは正はんたい。姉のローザはうそつきでなまけもの、食いしんぼうでおてんば。弟のエミリオはまじめなはたらきもので、ものごとをじっくりと<sup>かんが</sup>考<sup>こうどう</sup>えてから行動する。

かれらがくらすイタリアのベネベントのまわりには、たくさんの<sup>まもの</sup>魔物がすんでいる。それをいいことに、ローザはつまみぐいや、そうじをさぼったことなど、つごうの悪いことはぜんぶ魔物のせいにしてしまう。ある日、町に本当に魔物がやってきた。「オオカミ少年」のように、おとなたちはローザの言うことをしんじてくれない。ふたごはいとこや友だちと魔物をつかまえようとするけれど…。シリーズは4巻までつづいています。本の中のさし絵には、つづけてよんだ人だけがわかる、たのしいしかけがかくされています。

## 『小さなバイキング ビッケ』ルーネル・ヨンソン・作

エーヴェット・カールソン・絵 石渡利康・訳//評論社//94-ヨ



バイキングの<sup>そくちょう</sup>族長のむすこのビッケは、大男のお父さんとはちがい、体は小さく足はぼうきれみたいなやせっぽち。でも村一番の<sup>いちばん</sup>ちえのもちぬしです。ケンカずきのあらくれものばかりの村では、かわりものあつかいされていますが、ビッケは<sup>き</sup>気にしません。力くらべの<sup>しょうぶ</sup>勝負でも、頭をつかえば自分より大きな<sup>ぶん</sup>あに<sup>か</sup>き分たちに勝てるからです。

しかしある時、となりの国とのいくさにかり出されてしまいます。あらそいごとがきらいな<sup>へいわしゅぎしゃ</sup>「平和主義者」のビッケは、とくいのとんちをはたらかせ、ピンチをきりぬけます。

ビッケのシリーズは<sup>ぜんぶ</sup>全部で6さつあります。

## 『お皿のボタン』 たかどのほうこ・作絵//偕成社//91-タ

<sup>たかはし</sup>高橋さんの家には、ボタンが入ったお皿があります。とれたボタンをなくさないように入っていますが、どのようふくのボタンかわからないものや、ボタンではないものがまざっていることもありました。

その中で一番いばっているのは「ホワイト夫人」というボタンです。<sup>じょゆう</sup>女優のいしょうのボタンだったことがじまんです。ほかにも船のりのボタン「<sup>せんちょう</sup>船長」、お父さんのウエストからはじきとんだ「はりきりとつつあん」、ミステリアスな<sup>くろいわ</sup>「黒岩のジョー」など、へんてこなボタンが<sup>とうしょう</sup>つぎつぎ登場します。かれらはどうやって、お皿にたどりついたのでしょうか。ロマンと大ぼうけんが<sup>ものがたり</sup>つまった物語です。



# まだまだあるよ！おすすめの本

『かんぺきなこども』 ミカエル・エスコフィエ・作

マチュー・モデ・絵 石津ちひろ・訳//ポプラ社//P-エ

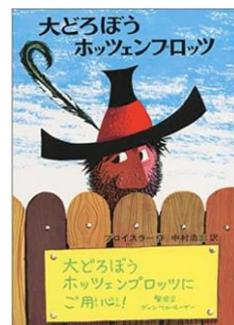
マカロンふさいは〈こどもストア〉へ出かけました。そこでは、音楽家タイプ、数学者タイプ、いっしょにあそべる犬つきなど、いろいろなこどもをとりそろえています。ふさいがほしいのは、「かんぺきなこども」です。そんなこども、いるのでしょうか？  
店員<sup>てんいん</sup>さんにきいてみると、ピエールという男の子をよういしてくれました。ピエールをすっかり気に入ったふさいは、かれをつれて<sup>かえ</sup>帰ります。ピエールはおぎょうぎがよく、早ね早おき、おてつだいもじょうずです。でもあることがきっかけで、はじめてだだをこねてしまいます。ピエールが「かんぺき」ではなかったことにおどろいたふさいは、〈こどもストア〉にピエールをつれて行きます。家族はいったい、どうなってしまうのでしょうか。

## 『大どろぼう ホッツェンプロッツ』

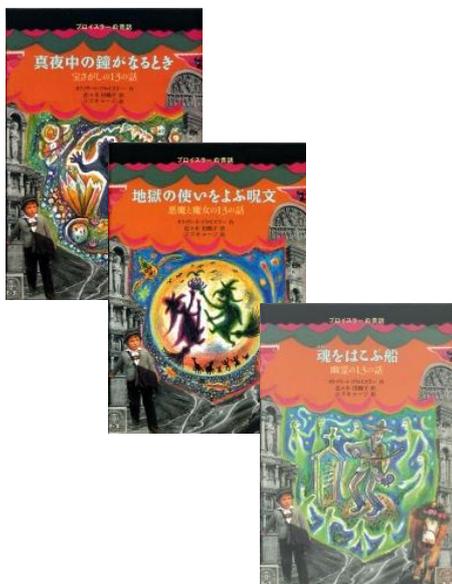
プロイスラー・作 中村浩三・訳//偕成社//94-プ

カスパールのおばあさんの<sup>たいせつ</sup>大切なコーヒーひきが、あくみょう高い大どろぼう、ホッツェンプロッツにぬすまれてしまいます。カスパールは友だちのゼッペルとホッツェンプロッツをつかまえようと、とびっきりのさくせんをたて、ホッツェンプロッツのねじろの<sup>ばしょ</sup>場所をつきとめます。しかし、さくせんに気づかれぎやくしゅうにあい、つかまえられてしまいます。

大どろぼうと二人の<sup>たいまほうつか</sup>たいけつは、大魔法使いツワッケルマンや、カエルにすがたをかえられた<sup>ようせい</sup>妖精のアマリリスをまきこんだ、大そどうになります。スリル<sup>まんてん</sup>満点のシリーズは、ぜんぶで<sup>かん</sup>3巻あります。



ホッツェンプロッツやツワッケルマンって、おもしろい名前ですよ。このシリーズは、ドイツの作家オトフリート・プロイスラーの作品です。プロイスラーは<sup>まじょ</sup>魔女や<sup>ゆうれい</sup>幽霊の昔話ばかりをあつめたシリーズも書いています。こわい話もへっちゃら！という人はぜひ、よんでみてください。



『真夜中の鐘がなるとき 宝さがしの13の話』

『地獄の使いをよぶ呪文 悪魔と魔女の13の話』

『魂をはこぶ船 幽霊の13の話』

オトフリート・プロイスラー・作 佐々木田鶴子・訳

小峰書店//94-プ

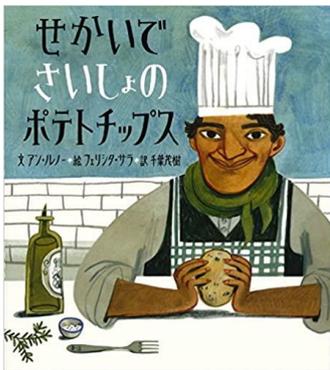
『ふしぎな木の実の料理法』 岡田淳・作//理論社//91-才

ここは、こそあどの森。スキッパーは、おばさんとふたりでユニマルという名前のトゲトゲの家にすんでいる男の子です。ある時旅行中のおばさんから、スキッパーにこづつみがとどきました。中には見たことがない木の実が入っていました。いっしょに入っていた手紙によると、その実、ポアポアは食べられるようです。でも手紙がぬれてしまっていたため、料理の方法が書いてある「〇〇さんにたずねればわかるでしょう」の〇〇のところがよめません。

手あたり次第、森の住人たちにポアポアの料理法をたずねればいいのですが、スキッパーは人前で話すとまっかになってしまう、ひっこみじあん。自分から人に話しかけるなんて、考えただけでもドキドキしてしまいます。

なんてめんどうなものくれたんだ、とおばさんをうらめしく思いながらも、スキッパーはこそあどの森へと一歩をふみ出します。

『せかいでさいしょのポテトチップス』 アン・ルノー・文  
フェリシタ・サラ・絵 千葉茂樹・訳//BL出版//P-ル



みんながすきなしょっぱいおかしのだいひょう、ポテトチップス。どうやってうまれたのでしょうか？

ジョージ・クラムさんは、アメリカのいなか町にある小さなレストランのクックです。ある日お店に「ポテトだけをどっさり食べたい」というへんてこなお客がやってきます。じまんのフライド・ポテトを出したのに、「ぶあつすぎる」とお皿をつきかえされてしまいます。いたずら好きのクラムさんはポテトをうすくスライスして…。

みちかな食べもののたんじょうのおはなし。

『回文で遊ぼう』 間部香代・作 ハラアツシ・絵//あかね書房//80

カズシゲくんとシズカさんが出会ったのは、新聞記者のおけたにたけおさん。自分のことを回文記者と名のります。回文とは、上からよんでも下からよんでも同じになる言葉のこと。名前だって「おけたにたけお」、回文です。「たけやぶやけた」「かんけいないけんか」「なつまでまつな」など、おけたにさんの書く新聞記事は回文だらけです。

たくさんの記事を見せてもらいますが、ふるい新聞はところどころやぶれています。まいごの記事の「この〇〇も〇〇のこ？」〇〇になにが入れば回文がかんせいするでしょう。

考えて楽しい、ひらめいて気持ちいい、言葉あそびの絵本です。